

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

今回は、子供の本と読書に関心のある団体と個人の皆さんにより構成されている「富士・子どもの本を学ぶ連絡会」を紹介いたします。

富士・子どもの本を学ぶ連絡会

会員の皆さんは、ふだんはそれぞれの地域で公民館などを利用し、読み聞かせや紙芝居などの活動をしています。使用する大型絵本や紙芝居などはすべて手づくり。毎月一回定例会を開いて、各団体の活動報告や、新しい作品の発表など、勉強会や情報交換をしています。

連絡会では、昭和五十九年から毎年、中央図書館の主催で「本はともだち子どもまつり」を開催しています。会の全団体が集まる唯一の行事であり、市内の各公民館を巡回して行われています。十七回目となること



▲受付の様子（本はともだち子どもまつり）



▲大型絵本の読み聞かせ（須津小絵本の会・おとぎのへやの皆さん）

しは、六月十日に吉永公民館で開催されました。

代表の渡辺由佳里さんは「会では、地域での活動や子どもまつりのほかにも、各団体が交代で毎月第一日曜日に、中央図書館で本の読み聞かせなどを行う『おたのしみ会』を開催しています。お話がうまくいき、子供たちが心から楽しんでくれたときの喜びはとても大きいものです。子供たちから元気のエネルギーをもらうような感じがします。初めは、子供のためと思いついてこの活動を始めたのですが、今では自分自身が楽しくてこの活動を続けているんですよ（笑）。

また、子どもまつりは、各公民館や地域の皆さんのご理解とご協力なしにはできません。いつも快く受け入れてくれる皆さんに、とても感謝しています。これからも、地域に根差した活動をしていきたいと思えます」と話してくれました。



行政相談委員として中部管区行政監察局表彰を受賞した

佐野 貞二さん
(天間)



野さんは、昭和六十二年より六期十二年間にわたり、富士市の行政相談委員として活躍しています。ことし五月には、中部管区行政監察局表彰を受賞しました。

富士市では、佐野さんを含め四人の行政相談委員の皆さんが、市民相談室での行政相談と、二、三か月に一度、市内の各公民館を巡回して「出張相談」を行っています。

佐野さんが行政相談委員となったのは、定年退職後、鷹岡商工会から行政相談委員として誘いがあつたことがきっかけなのだそう。それ以来、市民の皆さんの要望を受けて、古い木橋のかけかえや信号機の取りつけなど、市民生活のさまざまな問題に携わってきました。

佐野さんは「行政相談の内容は、とても幅広い範囲にわたり

ます。相談を受けてから解決するまでに、長い期間が必要なものもありました。

しかし、今では医療福祉関係、交通安全、社会教育などさまざまな制度が充実し、行政の組織もすっかりしているので、以前に比べると行政相談委員への相談件数は減ってきています。相談に乗るといっても『このよう便利な制度があるので、利用してみても』というようにアドバイスすることが多くなっています。

相談にはこれまでの人生経験を生かして対応するようにしています。また、自分の目にとまったことや、改善した方がよいと思うことなどがあれば、市民からの要請などがなくても関係機関に報告しています」と話してくれました。